

## IV 教育施策の具体的実施状況

### 3 多様化、高度化する社会の変化に対応した教育の推進 [国際社会・情報社会等への対応]

#### (1) 国際社会に対応した教育の推進

担当課：●県立学校教育課、義務教育課

#### (2) 情報社会に対応した教育の推進

担当課：●教育支援課、県立学校教育課、義務教育課

#### (3) 科学技術の進展に対応した教育の推進

担当課：●県立学校教育課、義務教育課

---

●は取りまとめ課



### 3 多様化、高度化する社会の変化に対応した教育の推進

#### (1) 基本方向

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。

このような知識基盤社会化やグローバル化に対応した多様な人材を育成するためには、本県の地理的条件や歴史的経験を生かし、異文化の理解や自国の文化を尊重する態度及び国際協調の精神等を教育の中で育み、海邦交流拠点を担う広い視野に立った人材育成に努めなければならない。

そのため、沖縄県がアジア・太平洋地域における拠点として、高い国際性や専門性に富む人材育成を図るため、小・中・高校生等の外国語教育や国際理解教育を推進する。

また、県民生活の向上に向けた情報通信基盤の整備の推進や医療、福祉、教育、防犯・防災等の各分野における情報通信技術の活用等、本県の情報通信産業がリーディング産業として一層の振興発展を遂げるためには、専門的な知識と技術を持った人材の育成が求められており、子どもたちの情報活用能力を育成することが不可欠である。

さらに、知識基盤社会を牽引する人材の育成には、社会・経済発展の原動力である科学技術の振興が必要である。次代の科学技術を担い、沖縄から世界に羽ばたく研究者や技術者となる人材を育成するために、学校においては地域の研究機関や大学院大学等との連携を深める等、児童生徒の科学技術への興味・関心を育み、豊かな感性と創造性の向上を図っていくことが必要である。

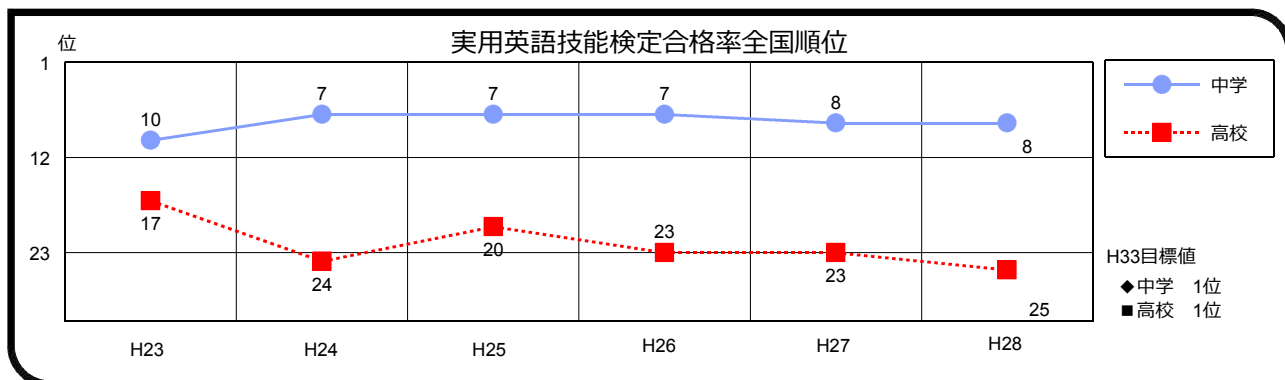
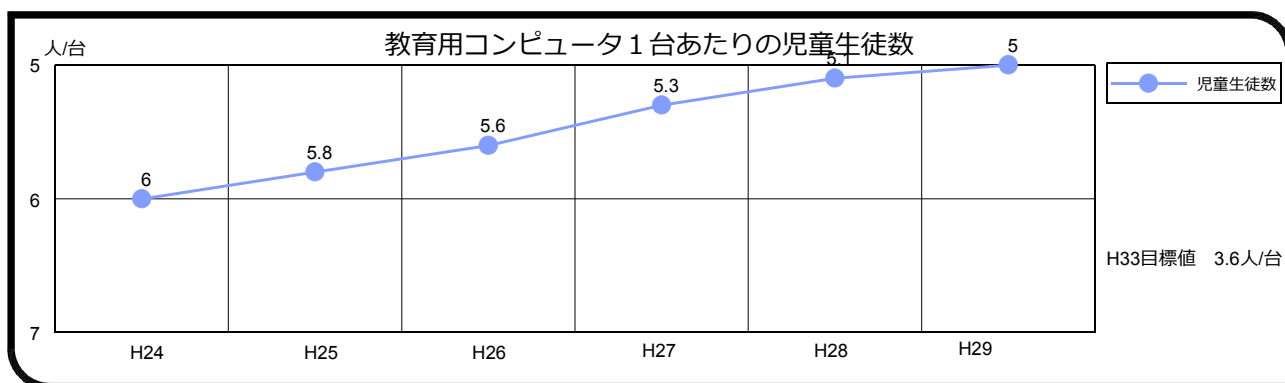
#### (2) 指標

「矢印」前年度からの傾向 「/」事業設定なし 「―」数値未発表・未確定 「頁」関連事業案内 「◎」目標値達成指標

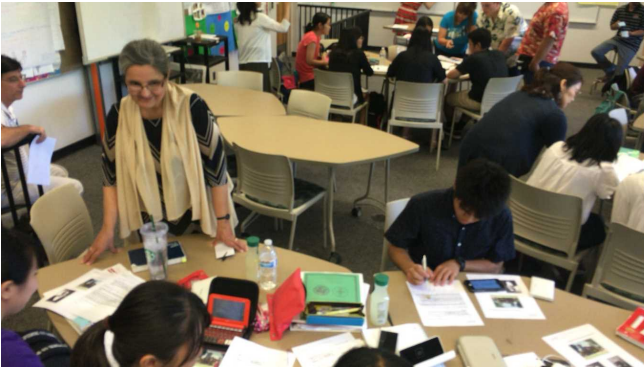
成果指標：該当頁	単	H25	H26	H27	H28	H29	目標値 H33
姉妹校提携校数：P104	校	→ 9	↗ 10	↗ 12	→ 12	→ 12	15
実用英語技能検定試験	中	→ 7	→ 7	↗ 8	→ 8	―	1
合格率全国順位：P104	高	↗ 20	↘ 23	→ 23	↘ 25	―	1
授業中にICTを活用して指導できる 教員の割合：P110	%	↗ 80.3	↗ 83.2	↗ 84.7	↗ 85.9	↗ 87.4	100
校務にICTを活用することができる 教員の割合：P110	%	↘ 82.3	↗ 84.4	↗ 84.9	↗ 85.7	↗ 85.9	100
沖縄県の大学進学者数に占める 理系大学への進学者数：P114	%	↗ 17.7	↗ 18.6	↘ 17.7	↗ 19.0	↘ 18.5	20

「矢印」前年度からの傾向 「/」事業設定なし 「—」数値未発表・未確定 「頁」関連事業案内 「◎」目標値達成指標

活動指標：該当頁	単位	H25	H26	H27	H28	H29	目標値H33
沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト受入者数：P96	人	↘ 12	↗ 16	↘ 15	↘ 12	↘ 10	25
外国青年招致事業の招致人数（県立学校）：P96	人	→ 49	→ 49	→ 49	→ 49	→ 49	50
専門高校生国外研修事業の派遣者数：P102	人	↗ 25	↗ 40	→ 40	→ 40	→ 40	40 ◎
国際性に富む人材育成留学事業の派遣者数：P98	人	↗ 95	↗ 99	↘ 93	↗ 94	↗ 99	80 ◎
沖縄県教員海外派遣者数：P102	人	→ 5	↗ 10	→ 10	↘ 6	→ 6	4 ◎
アメリカ高等教育体験研修の派遣者数：P98	人	→ 50	→ 50	→ 50	→ 50	→ 50	40 ◎
海外サイエンス体験短期研修の派遣者数：P98	人	→ 25	→ 25	→ 25	→ 25	→ 25	20 ◎
中国教育交流研修の派遣者数：P100	人	→ 20	→ 20	→ 20	→ 20	→ 20	20 ◎
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラムの派遣者数：P100	人	↗ 80	→ 80	↘ 79	↗ 80	↘ 74	70 ◎
英語担当者研修会実施回数：P104	回	↗6地区1	↘4地区1	↗5地区1	→5地区1	→6地区1	6地区1 ◎
沖縄県高校生海外雄飛プログラム派遣者数：P96	人	↘ 24	↗ 25	→ 25	→ 25	→ 25	25 ◎
教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数：P108	人	↗ 5.8	↗ 5.6	↗ 5.3	↗ 5.1	↗ 5.0	3.6
電子黒板のある学校の割合：P108	%	↗ 72.9	↗ 78.2	↗ 80.4	↗ 88.8	↗ 88.9	100
普通教室の校内LAN整備率：P108	%	↗ 88.9	↗ 90.2	↗ 92.0	↗ 94.7	↗ 95.0	100
教員一人一台の校務用コンピュータ整備率：P112	%	↗102.6	↗108.0	↗110.5	↗114.3	↘113.3	116.1 ◎
校務支援システム導入済みの学校の割合：P112	%	↗ 76.0	↘ 75.4	↘ 74.9	↘ 74.6	↗ 80.7	100
沖縄科学グランプリの実施：P114	回	→ 1	→ 1	→ 1	→ 1	→ 1	1 ◎
科学フォーラム・先端科学研究機関等生徒派遣：P114	回	→ 1	→ 1	→ 1	→ 1	→ 1	1 ◎



## ■ 英語立県沖縄を目指して



アメリカ高等研修 米国カリフォルニア州CSU



教員向け講演会・ワークショップ

## ■ 国際交流委員会



英語でお仕事プログラム

### 英語でお仕事プログラム 〈生徒の感想〉

- 私は将来、外資系か教師になろうと思っていましたが、他の職種や英語を使って自分を活かす仕事があるんだなと気付かされました。将来、誰もしたことがない、真似できないような、自分だけのやり方で夢を叶えて、日々成長できる仕事をしたいです。
- 外務省は日本と世界各国をつなぐ架け橋となる素敵なお仕事なんだなと思いました。語学をマスターすることが最終目標ではなく、語学をマスターして、ツールとして活用できた後に得られるものが重要だということを改めて気付かされました。

### 中学校・高等学校外国語科・国語科教員向けレクチャー及びワークショップ〈県立高校教諭〉

- ループリック評価を念頭に目標を立て、多くの実施方法を考えるのは勉強になりました。何らかの形で少しずつ取り入れて行きたいと思います。

(3) 各事業の点検・評価

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
① 国際社会に対応した教育の推進	<p>ア 沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト</p> <p>【担当課】 県立学校教育課 【21世紀ビジョン】 4-(1)-ア② 4-(1)-イ① 5-(4)-ア①</p> <p>【決算額】 (派遣) 10,106千円 (受入) 416千円</p> <p>【進捗状況】 やや遅れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 沖縄県の高校生を25名程度2週間ハワイ州へ派遣する。</li> <li>■ ハワイ州高校生25名程度を2週間沖縄県で受入する。</li> <li>■ 相互交流を行う。</li> </ul>	<p>(受入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ハワイ州高校生の受入(25人)(県単)</li> <li>■ 平和学習(平和祈念資料館での講義受講、ひめゆり平和資料館訪問、識名壕訪問、養秀会館訪問等)</li> <li>■ 高等学校での文化交流</li> <li>■ ツーリズム関連研修</li> </ul>	<p>(受入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ハワイ州高校生の受入(12名)</li> <li>■ 平和学習(平和祈念資料館、ひめゆり平和資料館訪問)</li> <li>■ 名護高校生、那覇国際高校生との交流会</li> <li>■ 沖縄の文化学習(沖縄ワールド訪問)</li> </ul>
	<p>イ 語学指導等を行う外国青年招致事業</p> <p>【担当課】 県立学校教育課 【21世紀ビジョン】 4-(1)-イ① 5-(4)-ア①</p> <p>【決算額】 213,518千円</p> <p>【進捗状況】 順調</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 語学指導を行うため外国青年を招致し、外国語指導助手(ALT)として県立学校に配置する。</li> <li>■ 高等学校における外国語教育、国際理解教育の充実・改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県立高等学校60校、特別支援学校15校に49名のALTを配置し、生徒のコミュニケーション能力向上や国際理解教育の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特別支援学校を含む県立学校(配置校42校、訪問校33校)において49名のALTを活用している。語学指導等において生徒のコミュニケーション能力の向上を図ると共に、異文化理解の促進にも努めた。</li> </ul>
	<p>ウ 外国人外国語指導助手事業</p> <p>【担当課】 県立学校教育課 【21世紀ビジョン】 -</p> <p>【決算額】 12,745千円</p> <p>【進捗状況】 順調</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県内在住の外国人を非常勤の外国人外国語指導助手(FLT)として採用する。</li> <li>■ 英語科、国際英語科、国際観光科等を設置する県立高校における英語教育及び中国語教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県立高等学校3校に1名ずつ計3名のFLTを配置し、生徒のコミュニケーション能力向上や国際理解教育の推進を図る。</li> <li>■ ALT研修会等での活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県立高等学校3校に1名ずつ計3名のFLTを配置し活用している(開邦高英語1名、球陽高英語1名、浦添商高中国語1名)。語学指導等において生徒のコミュニケーション能力の向上を図ると共に、異文化理解の促進にも努めた。</li> <li>■ ALT指導力等向上研修会(11月)において分科会講師を務め、ALTの指導力向上に貢献した。</li> </ul>

Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本県高校生がホストファミリーとしてハワイ州高校生を受け入れ、家庭と学校で共に生活し、相互理解を深めることができた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 受託業者、ハワイ沖縄連合会、現地スタッフとの連携強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本県の観光産業を支える人材を育成することを目指し、ツーリズム関連研修と平和学習、沖縄及びハワイの歴史、文化、伝統を学ぶ研修を実施する。</li> <li>■ 受託業者、ハワイ沖縄連合会、現地スタッフとのネットワークを確率し、議論の深化と情報共有を図る。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生徒の語学力向上と異文化理解の促進において重要な役割を担っている。</li> <li>■ 語学指導だけでなく、放課後の英語クラブや英語弁論・ディベート・スキット等の各種コンテスト、英検等の資格取得に向けた指導等への活用も図られている。</li> <li>■ 日頃の業務や研修等を通して教員の語学力向上にも効果を上げている。</li> <li>■ 活動指標の配置計画は平成29年度の計画値49名に対し実績値49名となり順調である。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生徒の外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため各県立学校におけるALTを活用した授業時数の増加を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「生徒の英語力向上推進プラン」における数値目標達成に向けてALTを活用した授業時数を増やすことに加え、パフォーマンス評価、課外活動等においても効果的な活用を図る。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生徒の語学力向上と異文化理解の促進において重要な役割を担っている。</li> <li>■ 語学指導だけでなく、放課後の英語クラブや、英語弁論・ディベート・スキット等の各種コンテスト、英検等の資格取得に向けた指導等への活用も図られている。</li> <li>■ 日頃の業務や研修等を通して、教員の語学力向上にも効果を上げている。</li> <li>■ 研修会の講師等を通してALTの指導力向上にも貢献している。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生徒の外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、各県立学校におけるALTを活用した授業時数の増加を図る。</li> <li>■ 県内在住の外国人を採用しているが、指導経験が豊富で優秀な人材の確保が難しくなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「生徒の英語力向上推進プラン」における数値目標達成に向けて、ALTを活用した授業時数を増やすことに加え、パフォーマンス評価、課外活動等においても効果的な活用を図る。</li> <li>■ 新規採用の際は十分な公募期間を設けると共に、県ホームページ以外での周知方法についても検討する。</li> </ul>

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
① 国際社会に対応した教育の推進	<p>工 国際性に富む人材育成留学事業</p> <p>【担当課】 県立学校教育課 【21世紀ビジョン】 4-(1)-イ① 5-(4)-ア①</p> <p>【決算額】 197,368千円</p> <p>【進捗状況】 順調</p>	<p>■ 県内高校生80名をアジア、アメリカ、欧州、南米諸国へ1年間派遣</p> <p>■ 県内大学生等を19名、国外大学の修士課程等へ派遣</p>	<p>■ 平成27年度派遣生(修士課程)及び平成28年度派遣生の帰国後、アンケートや報告書のとりまとめを行う。また、様々な場で体験談を発表する機会を設けると共に、これから留学する生徒及び留学中の生徒への支援を行う。</p> <p>■ 平成28年度に選考された高校生80名を1年間、大学生等19名を1年から2年間で国外の大学へ派遣する。</p> <p>■ 平成30年度派遣生(高校生)の募集・選考を行う。</p>	<p>■ 平成27年度派遣生及び平成28年度派遣生の帰国後、アンケートや報告書のとりまとめを行った。また、様々な場で体験談を発表会を実施し、これから留学する生徒及び留学中の生徒への支援を行った。</p> <p>■ 平成28年度に選考された高校生80名を1年間、大学生等19名を1年間から2年間で世界各国へ派遣。</p> <p>■ 平成30年度派遣生の募集・選考を行った。</p>
	<p>オ グローバル・リーダー育成海外短期研修事業</p> <p>【担当課】 県立学校教育課 【21世紀ビジョン】 3-(5)-I① 4-(1)-ア② 4-(1)-イ① 5-(4)-ア①</p> <p>【決算額】 ①35,495千円 ②12,795千円 ③ 7,730千円 ④29,647千円 ⑤25,174千円 ⑥10,106千円</p> <p>【進捗状況】 順調</p>	<p>① アメリカ高等教育体験研修</p> <p>② 海外サイエンス体験短期研修</p>	<p>■ アメリカの州立大学等へ派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験させる。スムーズな本研修実施へむけた事前研修を4回、本研修のまとめとしての事後研修を1回実施する。(派遣者数 高校生50名)</p> <p>■ 研究機関等の訪問、現地高校・大学等での理数系科目の授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを行う。また、本研修内容の効果を高める事前・事後研修を行う。(派遣者数 高校生25人)</p>	<p>■ アメリカの州立大学へ派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験させた。</p> <p>■ スムーズな本研修実施へむけた事前研修を4回、本研修のまとめとしての事後研修を1回実施した。</p> <p>■ オーストラリア・ビクトリア州へ派遣し、研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図った。また、研修効果を高めるため、事前、事後研修も行った。</p>



Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 帰国後アンケートの結果、高校生については語学力の向上以外に「より多様な交友関係を広げようとする意欲が増した」(90%)、「世界の政治、経済、社会的な出来事に対する関心が増した」(86%)等の意識の変容がみられた。大学生等については全員から留学の成果を今後の活動に活かすことについて前向きな回答があった。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 長期留学の事前にグローバル・リーダー育成短期研修事業に参加することで、新しい環境への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安も幾分解消される。</li> <li>■ 大学生等において希望大学への合格が得られず1名が派遣辞退となった。</li> <li>■ 国際情勢の変化等による治安上の問題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 短期研修の充実したプログラムに参加することで留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に対し長期留学にも応募するよう促す。</li> <li>■ 応募の際に希望教育機関の入学要件と本人の語学力を示す資料の提出を求め、選考の際に考慮する。</li> <li>■ プロポーザルの企画提案書へ緊急時対応についても明記させ、派遣中から綿密な報告・連絡・相談を行う。</li> <li>■ 外務省の海外渡航情報や大使館等からの情報を入手し、委託先を通して現地団体との連携を図る等、安全確保に万全を期す。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高校生50人をアメリカの州立大学へ派遣し、大学での語学、リーダーシップ研修を実施するとともに、ホストファミリーとの交流も異文化理解につながっている。以上のことから交流の架け橋となる人材育成の基礎作りが図られた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について、前年度派遣生・引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。</li> <li>■ 実践的な英語コミュニケーション能力を確認するため、面接試験において語学力、積極性をはかる選考試験を実施する必要がある。</li> <li>■ 外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事前研修においては、引き続き英会話能力向上を図るための外国語講師活用、異文化理解についての研修を実施する。</li> <li>■ 受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させる。また、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現地高校での授業参加、医学研究所および幹細胞研修施設、宇宙科学教育センターでの実習等を通して、科学分野への興味関心を高め、海外の大学等への進学に対する意欲の喚起が図られた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 派遣生徒、引率教諭を対象とした事前研修等において、語学や異文化理解に関する研修内容の充実を図る必要がある。</li> <li>■ 外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、派遣先の現地事務所等との連携を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現地高等学校等や研究機関における研修内容で深い学びへと繋がるよう、事前研修で実施している派遣生徒を対象とした「サイエンスイマージョン研修」を更に充実させる。</li> <li>■ 派遣生の安全確保のために外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の状況把握に努める。</li> </ul>

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
① 国際社会に対応した教育の推進		③ 中国教育交流研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中国語を学んでいる高校生を中心に異文化体験や現地高校生との交流を通して、中国への更なる興味関心を高める。また研修効果を高めるため、事前研修、事後研修を行う。(派遣者数 高校生20人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中国語を学んでいる高校生20人を対象に異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国文化への興味関心を高めた。また研修効果を高めるため、事前研修及び事後研修を行った。</li> </ul>
		④ 沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「書道」分野で活躍する高校生20名、「美術・工芸」分野で活躍する高校生20名の計40名を台湾へ派遣し文化交流を実施する。</li> <li>■ 「音楽」分野で活躍する高校生18名をドイツへ派遣し文化交流を実施する。</li> <li>■ 「郷土芸能」分野で活躍する高校生16名をハワイへ派遣し文化交流を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「書道」、「美術・工芸」部門は、台湾で台北市立第一女子高級中学、師範大附属高級中学と交流を行った。また、書道や水墨画の個別指導を受けた。</li> <li>■ 「音楽」部門は、ドイツでフンボルト・ギムナジウム・ケルン校と交流を行った。また、ケルン交響楽団の演奏家から直接、レッスンを受けた。</li> <li>■ 「郷土芸能」部門は、ハワイでカメハメハスクール、ハワイ大学マノア校と交流を行った。</li> </ul>

Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現地高校での授業参加、文化分野での交流を通じ、他の文化を認め受け入れる素地をつくり、将来、中国との架け橋となる人材として国際性を養うことができた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 派遣生徒を対象とした事前研修等において、語学や異文化理解に関する研修内容を実施するとともに、現地大学での語学研修の充実を図る必要がある。</li> <li>■ 外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事前研修等において語学や異文化理解に関する研修を実施するとともに、派遣生それぞれの中国語運用能力を把握し、現地研修終了後、事前・現地研修で学んだ語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。</li> <li>■ 受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高校生を74人3カ国に派遣した。</li> <li>■ それぞれの国での交流で芸術文化に対する理解がより深まった。</li> <li>■ 外国との文化の違いやコミュニケーションをとるために語学の重要性に気づくことができ、学習意欲が高まった。</li> <li>■ 実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。</li> <li>■ 合同成果報告会で他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本研修をより深めるために、事前研修の内容について更に吟味する必要がある。</li> <li>■ 交流の際に必要な語学力が十分でない。</li> <li>■ 本研修の成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。</li> <li>■ 交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。</li> <li>■ 事前に受け入れ現地高校等と日程調整を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。</li> <li>■ 語学研修の内容の充実に努める。</li> <li>■ 各分野におけるより効果的で治安のよい派遣先を検討する。</li> <li>■ 各分野の事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。</li> <li>■ 交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。</li> </ul>

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
① 国際社会に対応した教育の推進		⑤ 専門高校生国外研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 専門高校生40人を海外（オーストラリア、台湾）へ派遣し、現地産業の視察や現地高校生、大学生及び沖縄県出身者との交流、インターンシップ等を実施することによって、グローバル社会に対応した農業、工業、商業、水産業等の産業振興を担う人材の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル社会に対応した本県の産業振興を担う人材の育成を図るため、専門高校生を対象にオーストラリア20人、台湾20人、計40人を派遣した。</li> <li>■ 事前研修において、前年度派遣者のフォローアップ研修や今年度派遣者との意見交換を実施した。</li> <li>■ オーストラリア研修では新たに職業訓練専門学校での研修を実施し、台湾研修では現地企業におけるインターンシップを実施した。</li> <li>■ 充実した研修を実施するため、オーストラリア研修を、10日間から12日間とした。</li> </ul>
		⑥ 沖縄県高校生海外雄飛プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ハワイ州への高校生の派遣(25人) (ソフト交付金)</li> <li>■ 現地高校での体験授業</li> <li>■ 平和学習</li> <li>■ 観光業の研修</li> <li>■ 沖縄移民との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ハワイ州への高校生派遣(25名)</li> <li>■ ホームステイ及び現地高校での授業体験</li> <li>■ 平和学習 (アリゾナ記念館訪問)</li> <li>■ 観光業研修 (JALPAKハワイ、ポリネシアカルチャーセンター)</li> </ul>
	カ 沖縄県教員海外派遣事業 【担当課】 県立学校教育課 【21世紀ビジョン】 5-(3)-ウ④ 【決算額】 12,647千円 【進捗状況】 順調	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県立学校教員を海外へ半年間程度派遣し、英語教授法を学ばせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教職員の指導力向上及び資質向上を目指して海外へ派遣し、外国の教育システムの視察や教授法等の研修を受講させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 英語教員6名(高等学校3名、特別支援学校1名、中学校2名)をオーストラリアのクイーンズランド大学へ派遣し、英語教育法の教授法を学ぶとともに、派遣先での人的交流を通じて異文化の理解を深め、英語教員の英語指導力向上、英語によるコミュニケーション能力の充実を図った。</li> </ul>

Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事前研修において、前年度派遣者との意見交換を行うことで、研修意欲の向上が図られた。</li> <li>■ これまでの現地産業の視察や現地高校生、沖縄出身者等との交流に加え、職業訓練専門学校での研修や現地企業でのインターンシップなど、研修内容を充実させることで、グローバル社会に対応した産業振興を担う人材の育成を図り、将来、外国との架け橋となる高い国際性と専門性を併せもつ人材の基礎づくりができた。</li> <li>■ 研修事前、事後のアンケート等の意識調査によると、海外の大学等への進学や就職に対する意欲の向上が図られている。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現地関係機関等と連携して検討し、各専門分野に応じた研修内容を充実させる。</li> <li>■ 事前研修、事後研修の充実を図り、将来のグローバルリーダーとしての資質の向上を図る。</li> <li>■ 派遣生徒の健康・安全対策の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ オーストラリア研修では、農業、水産のほかに家庭、福祉系の生徒も参加するため、家庭、福祉分野にかかる研修を充実させる。</li> <li>■ 事前研修において、これまで以上に研修へ参加する意欲の向上を図るとともに、本県の文化や伝統に関する研修なども取り入れ、本研修における文化交流の充実を図る。</li> <li>■ 看護師を同行させるなど、生徒の健康管理を強化する。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ハワイでのホームステイと学校生活を通して、語学力の向上と異文化理解の促進を図ることができた。</li> <li>■ 平和学習を通して、「平和とはなにか」について多面的に考えることができた。</li> <li>■ 観光業研修を通して、沖縄のツーリズムを担う人材育成を図ることができた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 派遣プログラムの内容の更なる充実を図る。</li> <li>■ 受託業者、ハワイ沖縄連合会、現地スタッフとの連携強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本県の観光産業を支える人材を育成することを目的し、ツーリズム関連研修と平和学習、沖縄及びハワイの歴史、文化、伝統を学ぶ研修を実施する。</li> <li>■ 受託業者、ハワイ沖縄連合会、現地スタッフとのネットワークを確率し、議論の深化と情報共有を図る。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 派遣教員6名の当初計画に対して6名の派遣を実施することができた。研修に参加した教職員が各学校において英語教授法・派遣国の文化の紹介・留学の体験談など様々な分野における国際交流を教育活動に取り入れるように取り組んでいる。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者自身が研修に関する報告書を作成し、校内または域内での公開授業や研修等において本事業内容の発表を行うなど、研究成果の還元を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者自身の資質向上を図るとともに、効果的に生徒や職員に還元できるように教科会や校内研修会を開くように依頼する。</li> <li>■ 公開授業を通して、域内の英語担当者教員へTeaching English to Speakers of Other Languagesを実践する。各種研修会等においても、海外派遣（オーストラリア）で学んだことについて講話を依頼する。</li> </ul>

施 策 目	事 業 名	内 容	P l a n (計 画)	D o (実 施)
① 国際社会に対応した教育の推進	<p>キ 英語立県沖縄推進戦略事業</p> <p>【担当課】 県立学校教育課</p> <p>【21世紀ビジョン】 4-(1)-ア② 4-(1)-イ① 5-(4)-ア①</p> <p>【決算額】 ①1,688千円 ②1,569千円 ③7,165千円 ④1,988千円 ⑤30千円</p>	<p>① 高校英語担当者研修会</p> <p>■ 高校の英語教員が研修を深めることにより、お互いの英語教育の現状や課題を共有化し、英語教育の更なる充実改善を図る。</p>	<p>■ 各教育事務所単位(全6地区)において、中学校及び高校の英語担当者中高連携研修会を実施し、高校では、公開授業及び全体協議会を実施することで、英語担当教員の授業力向上に繋げる。</p>	<p>■ 全6地区の各県立高校において、公開授業及び全体協議会を実施した。</p>
	<p>【進捗状況】 順調</p>	<p>② 海外における交流拠点形成事業</p> <p>■ 海外姉妹校提携を推進</p> <p>■ 高校生の短期海外研修</p>	<p>■ 国際交流推進委員会で協議を重ねアイデアを出しながら新規の国際交流拠点づくりを推進し、それらの地域の学校と沖縄県の高等学校との国際交流を推進する。具体的な地域に関しては、学校の要望を受け協議を行う。</p>	<p>■ 米国モンタナ州及びカリフォルニア州への派遣生徒の視察を行うとともに、カリフォルニア州チコ郡の教育機関と交流意向書の締結を行った。</p>
		<p>③ 実用技能英語検定合格推進校拡充事業</p> <p>[英検合格推進モデル校の設置]</p> <p>■ 英検合格推進校の県指定モデル校を設置し、英語能力判定テストの実施、英語力向上セミナーを開催</p>	<p>■ 国際的な視野を持ち国際社会において主体的に行動できる人材を育成するため、県立高等学校の60校すべての2年生を対象に英語能力判定テストを実施し、生徒の英語力の向上を図るとともに英検取得率日本一を目指す。</p>	<p>■ 県立高校59校、13,543名の高校2年生を対象に英語能力判定テストを実施し、客観的な英語力の把握と実施学校におけるその後の英語指導への方向性を示した。</p>

Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体協議会では、「英語の授業を英語で行うことを基本とした『主体的・対話的で深い学び』の取組について」をテーマに中高英語担当者が協議し、英語指導への方向性を示した。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 小学校で外国語が教科化されることに伴い、小中高の連携を深めるために、小学校での外国語活動または外国語の授業を中学校及び高校の英語担当教員が参観するなど、連携した取組を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 小中高大連携委員会において、小学校での外国語活動または外国語の公開授業が実施できるように調整する。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 短期研修事業と長期留学事業において派遣を行っている地域に引き続き研修を受け入れてもらった。引き続き、本県高校生の海外研修が充実するよう取り組んでいく。カリフォルニア州チコ郡教育機関と交流意向書の締結を行うことができた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 交流意向書に基づき生徒の研修等で派遣をする際に効果的なプログラムが実施されているか検証を行う。</li> <li>■ 国際交流推進委員会において新規の意向書締結に向けて協議を続けていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 交流意向書を結んでいる地域と県内の高等学校との姉妹校交流締結が推進できるよう国際交流推進委員会で協議を重ねる。より具体的な支援策を提供していく。また必要があれば学校訪問も実施する。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 13,543名の高校生が各自の英語力を客観視することができた。文部科学省が定める「高校卒業時の段階で生徒の英語力が英検準2級相当以上を有する割合を平成29年度までに50%を目標とする」という目標値達成のための一助となっている。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ フィードバック研修会の持ち方について、データの分析のみならず前年に実施した学校の取り組み等について情報を共有できるように検討していく。</li> <li>■ 英語担当者中高連携研修会（各教育事務所単位6地区）でも本県の英語検定の取組について説明をし生徒の受験を促してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ フィードバック研修会の持ち方について、データの分析のみならず前年に実施した学校の取り組み等について情報を共有できるようにしていく。</li> <li>■ 英語担当者中高連携研修会（各教育事務所単位6地区）でも、本県の英語検定の取組について説明をし、生徒の受験を促してもらう。</li> <li>■ 小中高大連携委員会において、本県の目標値を明記した「沖縄県英語教育改善プラン」を、今年度の結果と各学校が設定した目標値を踏まえて改定していく。</li> </ul>

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
① 国際社会に対応した教育の推進		<p>④ 小中高大連携事業</p> <p>■ 英語力指標の研修及び検証を目的に英語担当者研修会を実施</p>	<p>■ 優秀英語教員育成のための「英語授業マイスター発掘プロジェクト」を引き続き実施する。また、児童・生徒の英検取得率を向上させるために取得状況の分析を行っていく。</p>	<p>■ 小・中・高・大の英語教員の連携による授業改善の取組や児童・生徒の英語力向上への取組を図ることを目的に「小中高大連携委員会」を年5回開催した。優秀英語教員育成のための「英語授業マイスター発掘プロジェクト」を実施した。小学校、中学校、高校から各2名の応募があり小学校1名、中学校1名、高校1名、計3名を英語授業マイスターとして認定した。</p>
		<p>⑤ 県内体験交流推進事業</p> <p>■ 大学院大学やJICA沖縄等との連携を図り、児童生徒・教員の交流を促進</p>	<p>■ 外国語と深い関わりのある機関、沖縄科学技術大学院大学(OIST)やJICA沖縄、沖縄アミークス、基地内学校等との連携を通して外国語や異文化を幅広く理解し、興味を喚起する。また、生徒自らの進路設定に活かす機会とする。</p>	<p>■ 県内英語関連諸機関提供の27チャレンジプログラムの更新を連携機関と行い、国際交流委員会で企画した「英語でお仕事プログラム」を実施した。</p>



Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 活動指標の実行委員会の開催数が計画値10回に対して委員の日程調整が困難で4回の開催になった。</li> <li>■ 小中高から英語授業マイスターへ各2名の応募があり各校種から1名ずつ、計3名が認定された。</li> <li>■ マイスターに認定された教員の授業公開やマイスターによる講話を実施したことで小学校外国語活動教員の指導力向上に繋がった。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本取組について推薦者や応募者の取り組みがスムーズに行えるように周知を図っていく。委員会においても周知方法を協議していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 平成30年度は高等学校からの応募が増えるように全6地区での中高連携研修会、英語教員指導力向上研修会、教育課程説明会で説明周知する。</li> <li>■ 応募者選考の際の授業観察においては、指導案を提出してもらうこと、内容は教科書を用いること等を確認し、事前に応募者へ伝える。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前年度に引き続き、OISTの施設見学等、英語に親しむ取り組みを行い、303名の中高生が参加した。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ イベントに参加をする生徒が英語を学習することによって将来得られるメリットについて理解が深まるような仕掛けづくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「英語でお仕事プログラム」については、今年度好評を得た観光業、官公庁からの講師を次年度も招聘し、分科会増を図る。</li> <li>■ 参加人数に制限を設け、内容を充実させる。</li> </ul>

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
② 情報 社会 に 対 応 し た 教 育 の 推 進	<p>ア 教育用コンピュータの整備事業</p> <p>【担当課】 教育支援課</p> <p>【21世紀ビジョン】 2-(6)-イ① 5-(4)-ア②</p> <p>【決算額】 451,406千円</p> <p>【進捗状況】 順調</p>	<p>■ 教育用コンピュータ及びソフトウェアの整備</p>	<p>■ 県立高等学校及び特別支援学校44校へ教育用コンピュータ1,765台をレンタルリース方式（5年）により更新整備を行うとともに、3回以上のセキュリティチェックを実施する。</p> <p>■ さらに継続して県立球陽中学校と開邦中学校への整備も行う。</p>	<p>■ 県立高等学校及び特別支援学校の46校へ、教育用コンピュータ2,554台のリース更新を行った。同時に普通高校23校の395教室に無線LAN環境を整備した。</p> <p>■ 県立中学校（開邦・球陽）2校に対しても教育用コンピュータ5台、電子黒板2台を含めた機器を備品整備した。</p>
	<p>イ 県立学校インターネット推進事業</p> <p>【担当課】 教育支援課</p> <p>【21世紀ビジョン】 2-(6)-イ① 5-(4)-ア②</p> <p>【決算額】 10,479千円</p> <p>【進捗状況】 順調</p>	<p>■ 全県立学校の光ファイバによる超高速インターネットへの接続</p>	<p>■ 超高速回線への切り替えがまだの地域として、名護以北や宮古島の一部の学校の整備を進める。</p>	<p>■ 本事業はインターネットを活用した生徒の学力向上を図ることなどを目的に県立学校等における通信料等を負担している。平成29年度は、超高速回線の整備済校の利用環境を維持しつつ、回線事業者と未整備校の超高速回線への移行の協議を行った。</p>

Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教育用コンピュータの整備において、活動指数を教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数で数値設定を行っており、平成33年には3.6人に1台を目標としている。平成30年3月現在は5.0人に1台となり、目標に近づいた。</li> <li>■ 教育用コンピュータの更新整備をすることにより、児童生徒に対して、情報化社会に主体的に対応するための「情報活用能力」の育成環境の整備が図られた。</li> <li>■ また、セキュリティチェックにおいては、独自にホームページを管理している3カ所（総合教育センター、県立図書館、生涯学習振興課）について、脆弱性診断を実施し、診断結果として報告された要改善項目の対策を促した。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 文部科学省の普通教室のICT環境整備ステップのStage3（無線LAN・大型提示装置の常設、4クラスに1セットの可動式PCの整備など）達成に向けて、現状の把握と必要な整備を段階的に進める必要がある。</li> <li>■ 段階的な整備のために整備方針及び計画の策定が必要である。</li> <li>■ 新しく整備した電子黒板、無線LAN環境機器をより効果的に活用するために、ICT支援員の導入などの検討が必要となる。</li> <li>■ 無線LANなどの新たな機器の導入に対応した管理や運用のための規定について検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 整備方針及び計画等を整備することで、計画的な整備の方向性を示す。</li> <li>■ 県立中学校2校（開邦中、球陽中）に対して、現状と同程度の整備を行うと同時に、平成27年度にひとり1台のタブレット端末の整備をすませた与勝緑が丘中学校の活用状況を参考に、効果的な整備の方向を検討する。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 平成28年10月に本島と離島間の回線が光回線でループ化されたことを踏まえ、回線を提供している事業者へ超高速回線切り替えの協議を行った。その結果、県立学校81校（高校60校 特別支援学校21校）のうち、超高速回線に切り替わっていない学校は3校（辺土名・伊良部・宮古特別支援）のみで、接続率は96.3%となり、文部科学省による「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」の全国平均88.8%（平成29年3月現在）を上回っている状況である。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海底光ケーブルの施設により、地域の光通信のインフラ整備や光通信サービスの整備状況を注視すると共に、超高速回線サービスが接続されていない残り3校の超高速回線への移行に対応していく必要がある。</li> <li>■ 文部科学省が超高速回線の基準を変更（現在30Mbps→100Mbps）する事を検討しており、新しい基準に対応できる環境について検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ H29年度において超高速回線が未整備である辺土名高校、伊良部高校及び宮古特別支援学校に関して情報収集及び協議を進め、H30年度中に超高速回線移行を目指す。</li> <li>■ 超高速回線の整備済校については、H30年度中に更なる回線の高速化を図る（200Mbps→1Gbps）。</li> </ul>

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
② 情報 社会 に 対 応 し た 教 育 の 推 進	ウ 教職員研修 (IT教育研 修) 事業 【担当課】 教育支援課 【21世紀ビジョン】 2-(6)-イ① 5-(4)-ア② 【決算額】 2,167千円 【進捗状況】 順調	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校の情報化を推進する教育情報化推進リーダーの養成及び校内研修の充実に資する研修の実施</li> <li>■ 教科指導でのICT活用推進、校務の情報化に係る研修の実施</li> <li>■ 情報モラル教育の充実に資する研修の実施</li> <li>■ 情報セキュリティに関する研修の実施</li> <li>■ 学校の情報化を推進するための管理者向け研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ICT活用指導力向上のための研修として、夏季短期講座やICT研修講座を実施し、教員の資質向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ICT活用指導力向上のため、夏季短期講座やICT研修講座を実施したことで、教員の資質向上につながった。</li> </ul>

注\* : ICTとは、Information and Communication Technology:情報通信技術の意

Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ICT活用教員割合は計画値(100%)を下回っているものの、ICTが活用できる教員の全国の割合(85.9%)を上回っており、また、増加傾向にあることから、順調であると判断できる。</li> <li>■ 教育情報化推進講座（全公立学校各1名参加の指定研修）として、教育情報化推進リーダーの養成及び校内研修につながる内容の研修を行ったことが、教員の資質向上につながっていると分析している。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 電子黒板やタブレット端末を含めたICT機器を活用する事により、「主体的・対話的で深い学び」を構築する授業への注目が集まる中で、それに対応する研修が必要となる。</li> <li>■ 無線LAN環境が整備される中で、今後の運用（BYODなど）について検討が進む事が予想される。今後、生徒に対する情報モラルの指導について、より深い知識と指導力が教師に求められるため、指導力向上に向けた研修が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 引き続き、教育情報化推進講座やICT研修講座を開催し、従来の内容に加えて、新たに整備したICT機器に関する内容を盛り込むことで、ICT教育研修の充実を図る。</li> <li>■ 無線LAN環境が整備されることで、より身近になるICT機器（タブレット等）の利用を含めて、情報モラル教育に関する研修を、総合教育センターと協力して実施する。</li> </ul>

注\*：BYODとは、Bring Your Own Device:自分のデバイスを持ち込むの意で、児童生徒が私物の端末を学校に持ち込んで活用することを指す。

■ ICT教育  
IT教育センターによる出前講座の様子



夏季短期研修



児童生徒実習

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
② 情報社会に対応した教育の推進	<p>工 教員用パソコン一人一台の整備</p> <p>【担当課】 教育支援課 【21世紀ビジョン】 5-(3)-ウ④ 【決算額】 96,874千円 【進捗状況】 順調</p>	<p>■ 校務の情報化の推進及び情報セキュリティ確保のため教員用パソコンについて一人一台の整備を行う</p>	<p>■ 県立学校80校に1,118台のノートパソコンをリース契約（5年）で整備を予定している。</p>	<p>■ 県立学校80校に1,118台のノートパソコンをリース契約（5年）で整備を行った。</p>
	<p>オ 教育情報ネットワーク拠点整備事業</p> <p>【担当課】 県立学校教育課 教育支援課 義務教育課 【21世紀ビジョン】 5-(3)-ア 【決算額】 84,626千円 【進捗状況】 順調</p>	<p>■ IT教育センターで運用する県立学校の安心・安全なネットワーク環境の維持に向け、設備の更新等を図る</p> <p>■ 離島・へき地区の児童生徒の学習を支援し、学力の向上と情報活用能力の育成を促進する</p>	<p>■ 県立学校の学習の質の向上に向けた情報通信基盤を整備するために教育情報ネットワークサーバー群を更新する。</p> <p>■ 教育情報ネットワークは、今後5年間の端末台数の増加に対応するため、6万台の端末からのアクセスに耐えるネットワークインフラ及びセキュリティシステムを構築する。</p> <p>■ クラウドサービスを活用し、災害時や停電時においても学校ホームページの閲覧が継続できる仕様とする。</p> <p>■ 学校で活用できる学習支援システムを提供する。</p> <p>■ 教育の機会均等と水準の維持向上を図るため、公立小中学校において、学力向上Webシステムを活用する。</p>	<p>■ 教育情報ネットワークサーバー構築事業を5年のリース契約で整備する。</p> <p>■ H28年10月から構築を開始しH29年3月に完成させた。</p> <p>■ 沖縄県到達度調査、Web実力調査及び単元Webテストを実施し、リアルタイムに児童生徒の学習状況を把握し、授業改善に生かした。</p>
	<p>カ 校務支援システムの整備事業</p> <p>【担当課】 県立学校教育課 教育支援課 義務教育課 【21世紀ビジョン】 5-(3)-ウ 【決算額】 58,933千円 【進捗状況】 概ね順調</p>	<p>■ 小・中・高校（全日制）、高校（定時制・通信制）、特別支援学校の各学校向けの校務支援システムの充実・整備</p>	<p>■ 新進路相談支援システムの円滑な運用を図るため、新しい操作や運用に関する研修会を実施する。県立中学校3校に対して、「生徒情報管理システム」サポート終了に伴い、代替となるシステムの検討を進める。</p>	<p>■ 特別支援学校版の校務支援システムは構築に向けた検討委員会を5回開催し、具体的な機能を仕様に盛り込むことができた。</p> <p>■ 県立中学校版校務支援システムを構築する担当者連絡会議を開催し、仕様等に関して具体的な協議ができた。</p>

Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実績値114.3%の整備率を達成することができ、進捗状況に関しては順調である。</li> <li>■県立学校にこれまで5,057台の校務用コンピュータを整備することにより、教員の校務の効率化による事務負担が軽減され、児童生徒に向き合う時間の確保につながり、教育の質の改善が図られている。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■新たなニーズに対応するため、限られた予算内で整備するために、コンピュータ単価を精査し、より多くのコンピュータを整備できるよう仕様の検討を進める。</li> <li>■為替変動等の外部要因にも対応可能なものにするため、弾力的な予算確保が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■校務用コンピュータを利用している職種（教員以外）及び共有又は成績管理用として利用されているコンピュータの台数を調査し、適正な整備台数を把握した上で、計画的・段階的な整備のための整備方針・計画の策定を行う。</li> <li>■必要な台数を確保するため、仕様書を見直すなど、コンピュータの単価を精査し、入札を行う前に、再度、予算範囲内での仕様・ボリュームであるかを確認し、入札不調とならないように調整する。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■当初の計画通り事業を完了することができた。</li> <li>■最新のサーバー機器を導入したことにより、各学校のインターネット接続速度が向上した。</li> <li>■サーバー機器の設置数が増えたと同時にネットワーク設計の見直しを行い、学校からインターネットへの接続障害が減少した。</li> <li>■学校の教育活動に対して安心安全で高速なインターネットを提供している。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ネットワーク接続量の増加により総合教育センターと上流のインターネット回線の帯域（1G/bps）を圧迫している。今後、上流回線との接続速度をより高速化する必要がある。</li> <li>■教育センターにおける停電等の際のサーバーダウン時に学校ホームページの更新等ができるように機能の一部を教育センター内サーバーからクラウドサービスに移行する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教育活動における利用の拡大に対応するため、「沖縄県教育情報ネットワーク管理運用規程」を改訂する。</li> <li>■教育情報ネットワークについて、これまで班内で毎週1回の定例会議に加え構築業者と毎月1回の定例会議を開催し、懸念事項等を共有する。</li> <li>■次回更新（H32年度）ではサーバー群をクラウドでの運用を検討する。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実績値が74.9%と計画値を上回っている。県立高校については新進路相談支援システムの稼働により、これまで稼働していなかった定時制・通信制課程を含めた県立高等学校60校全てに校務支援システムを稼働・運用することが可能となった。特別支援学校についても平成30年稼働に向けて準備を進めている。</li> <li>■校務支援システムのサポートを行うことにより進路指導の充実や教員の教材研究、個別指導の充実が図られた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■小中学校の校務支援システムの普及は各市町村教育委員会の公簿の電子化への対応が必要になるとともに、今後の全国的な動向について情報を提供する必要がある。</li> <li>■文部科学省が進める統合型校務支援システムの普及促進に向け、校務に関する文書等の電子化・標準化の考え方の整理及び指針、工程表の策定などが求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新進路相談支援システムを効果的に運用するための研修を総合教育センターと連携して行う。</li> <li>■特別支援学校版校務支援システムのサーバに係る円滑な入札を県立学校教育課と連携して行う。</li> <li>■県立中学校の新たな校務支援システムについて、関係課と連携して構築に向けた方向を検討する。</li> </ul>

課題	事業名	内容	Plan (計画)	Do (実施)
③ 科学技術の進展に対応した教育の推進	<p>ア 沖縄科学技術向上事業</p> <p>【担当課】 県立学校教育課 【21世紀ビジョン】 3-(5)-I① 5-(4)-I① 【決算額】 6,217千円 【進捗状況】 概ね順調</p>	<p>■ 沖縄科学グランプリ（科学の甲子園全国大会県予選）を実施し、参加希望者を対象に科学フォーラムや先端科学研究機関等へ生徒を派遣することで、科学的探究能力を高め、理系人材の育成を図る。</p>	<p>■ 「科学の甲子園全国大会」の県予選である「沖縄科学グランプリ」を開催し、その参加希望者を対象に先端研究機関等へ生徒を派遣する。また、競技力向上を図るための合同宿泊学習会を開き、運営については、沖縄科学技術向上事業実行委員会が担う。</p>	<p>■ 「科学の甲子園全国大会」の県予選である「沖縄科学グランプリ」を開催し、その参加希望者から選考した43名を対象に先端研究機関等へ派遣した。また、理科の魅力を知ってもらい、平成29年度の科学グランプリでの競技力向上を図るための合同宿泊学習会を開き31名の生徒が参加した。</p>
	<p>イ 科学の甲子園ジュニア沖縄県大会</p> <p>【担当課】 義務教育課 【21世紀ビジョン】 5-(4)-I 【決算額】 782千円 【進捗状況】 順調</p>	<p>■ 科学の甲子園全国大会に派遣する沖縄県代表チームの選考と、科学好きの裾野を広げ、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材の育成を目的として科学の甲子園ジュニア沖縄県大会を開催する。</p>	<p>■ 科学の甲子園ジュニアの周知と広報 ■ 沖縄県大会問題検討委員会の開催 ■ 沖縄県理科教育協会への支援依頼 ■ 県内6地区で科学の甲子園ジュニア地区予選を開催 ■ 各地地区代表チームによる沖縄県大会を開催し沖縄県代表チームを決定 ■ 沖縄県代表チームを科学の甲子園ジュニア全国大会に派遣</p>	<p>■ 地区大会（8月15日までに各教育事務所で実施）37校46チームが参加 ■ 県大会（8月28日、県立総合教育センターで実施）8校8チームが参加 ■ 全国大会（12月1日～3日）琉球大学教育学部附属中学校を全国大会へ派遣</p>



Check (検証)	Action (改善)
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 沖縄科学グランプリの参加校数は20校で計画値をほぼ達成した。県代表として科学の甲子園に参加した県立開邦高校が39位になった。また、つくば市の先端研究施設へ沖縄科学グランプリの参加希望者から選考した43名（8月30名、3月13名）を派遣した。沖縄科学グランプリに参加することは理系進学を目指す生徒らの大きな目標の一つとなっている。理系のイベントが増えることで理系進学への関心が高まり、理系進学者の増加につながりつつある。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ つくばの先端施設見学や宿泊学習会の参加者の大会への参加を周知させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 引き続き、つくば先端施設研修や宿泊学習会へ参加した生徒が所属する学校へ周知し、沖縄科学グランプリへの参加を呼びかける。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県内全ての地区で地区予選を開催した上で、各地区代表による県大会を開催できた。</li> <li>■ 地区大会から含めると37校46チーム、262名の生徒が本事業に参加した。</li> <li>■ 沖縄県代表で全国大会に参加した琉球大学教育学部附属中学校は全国43位の成績を収めた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各地区大会参加校及び参加者数の拡大。</li> <li>■ 沖縄県大会問題の検討。</li> <li>■ 沖縄県大会の計画・運営、及び他機関との連携の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地区予選及び沖縄県大会の周知に向けた広報の充実と研究会等への協力依頼</li> <li>■ 沖縄県大会問題検討委員会の開催</li> <li>■ 沖縄県立総合教育センター及び沖縄県理科教育協会への支援依頼</li> </ul>

(×E)